

資料

看護実践力の向上を支援するためのシナリオ学習教材の開発

村井嘉子¹ 堅田智香子¹ 加藤亜妃子¹ 彦聖美¹ 藤田三恵¹
 田村幸恵¹ 丸岡直子¹ 川島和代¹

概 要

看護実践力の向上をめざして、DVD (Digital Versatile Disc) による学習教材『自ら学べるシナリオ学習看護実践力の向上をめざして -Step by step forward』を開発した。

本教材開発の目的は、学生が学んでおくことが望ましいがその機会が制限される看護場面、あるいは対処するには難度が高く複雑な看護場面を提示し、学習者の能力・理解力に応じて分析的に思考することによって看護介入について考えることを支援することである。9つのシナリオを提示し、看護基礎教育課程の学生、新人看護師、臨床3年目以上の看護師を対象に段階的な学習内容で構成されている。各自の学習進行に伴い、どの段階からでも学習出来るように工夫されている。学生の看護実践力向上をめざした自学自習を支援するだけでなく、臨床における継続教育、潜在看護師の現場復帰支援においても応用活用が期待される。

今後、本教材の活用と評価を行い教材としての質を高め、また活用を通して看護基礎教育と継続教育の連携を図る循環・協働型の教育システムとして発展させていきたいと考えている。

キーワード シミュレーション教育、シナリオ学習、看護教育、看護実践力、人材育成

1. はじめに

臨床現場では、医療技術の進歩、患者の高齢化・重症化、平均在院日数の短縮化などにより、療養生活支援の専門職としての看護師の役割は、より安全で質の高い看護を提供することにある。この社会的なニーズに応えるには、臨床現場における看護師の実践力を強化し、そのための時代に即した教育システムを構築することが急務である。

一方で、看護基礎教育（以下、基礎教育）の卒業時点では、臨床が期待し求める実践力が備わっているとは言い難い状況がある^{1) 2)}。また、新人看護師は臨床現場において看護業務の複雑化と多様化の中で過酷な看護業務が強いられ、新人看護師が実践力を身につけるために、指導を受ける側と指導をする側の双方に相当な努力と忍耐を強いっている現状がある³⁾。平成21年度から基礎教育カリキュラムが改正され、より臨床を想定し卒業時点の実践力を向上させる方向に向かっている。また、平成22年4月から新人看護職員の卒後研修が努力義務化されたことで、看護教育が基礎教育・継続教育共に改革の時期と言える。

学習が臨床の実践とつながることを学習者に実

感させることのできる有効な学習方法の一つとして、シミュレーション教育が挙げられる⁴⁾。シミュレーション教育は、臨床を模倣・再現した状況の中で、人や物と関わりながら専門的な知識と技術を学ぶことである。これまで基礎教育では、学生同士のロールプレイ、妊婦や高齢者の疑似体験、ペーパーペイシェントによる看護展開、模型による演習などを活用してきた。近年は、より精密・精巧なシミュレーションや模型による学習、模擬患者を活用した演習、CAI (Computer Aided Instruction: コンピューター支援教育)、インターネットを利用したe-Learningによる学習サポートシステムの構築などが注目されている。

シミュレーション教育には、個人の技術の習得に焦点を当てたトレーニング、あるいは臨床の現場で起きる様々な出来事という素材をシナリオという教材に変えて学ぶものがある^{5) 6)}。シナリオとなる素材は、臨床において日常展開される患者とのコミュニケーションや生活援助、観察などあらゆる状況が対象となる。どのような状況でもシナリオにしてシミュレーション教育を実施することが可能であり、臨床現場を疑似体験することから実践力をつけていく学習・訓練であることが最

¹ 石川県立看護大学

も効果的であると言える。

国内外において“シミュレーション・センター”の立ち上げなど、シミュレーション教育は普及している。高機能シミュレータのほか、多数のタスクトレーナーを備えた指導、シミュレーション学習を統合する方法やシミュレーションプログラムの組み立てが紹介されるなど、幅広い活用が見られる^{7) 8) 9)}。これは臨床状況をリアルに再現することが可能であることより、初学者には基本的な看護技術を実践すること、また継続教育においても頻繁には経験できないような急変事例への対応等を訓練することがプログラムされていることで、何度でも繰り返し再現できるという利点がある。また、間違った行動や選択をした場合は時間を止めて検討したり、やり直したりすることも可能であることが評価できる。基礎教育における改正カリキュラムに沿って、臨床実践に近い状況を想定した演習が実践力の向上に有効であるとしてシミュレータやモデルなどの演習の整備を推進している。また、臨床が求める実践力を新人看護師が身につけるために、あるいは看護職有資格者の復職支援の学習プログラム^{10) 11)}として、シミュレーション教育を成人教育の中核として位置づけ、学習者の主体的学習支援を行うことで自己学習力を培うことに効果的な方法としている。これは、単に看護実践力の向上を期待するばかりでなく、医療チームにおける多職種連携を考える学習の場にもなっている。

本稿の目的は、I大学における学生の自学自習を支えるシミュレーション教育によるシナリオ学習教材開発のプロセスを紹介することである。本稿を通して、今後の教材開発に着手する場合の一助になることを期待する。

2. 教材開発の方法

2.1 教材開発の目的

本教材開発の目的は、学生が学んでおくことが望ましいがその機会が制限される看護場面、あるいは対処するには難度が高く複雑（困難）な看護場面を提示し、状況について繰り返し（学習者の能力・理解力に応じて）分析的に思考することによって看護介入の方法を考えることを支援することである。

2.2 教材開発の意義

看護実践現場に即した看護現象を教材として提示することで、基礎教育課程における学生の自学

自習を推進し看護実践力の向上に寄与することができる。また、本教材は臨床における新人看護師の継続教育、潜在看護師の現場復帰支援においても応用活用が期待される。

2.3 教材開発のスケジュール

2009年8月より基本構想の立案、同年10月に基本構想案の具体化の検討と同時にシナリオの執筆に着手、2010年3月初旬にシナリオに沿った看護場面の撮影、その後完成に至るまで見直しと修正を行った。

2.4 教材開発のプロセス

(1) 基本構想の立案

教材開発チームのフリーディスカッションを通して、教材の基本構想は以下の5点とした。

- ①ユーザーは、主として基礎教育課程の学生、および新人看護師とする。
- ②そのために段階的な学習（基本的思考から発展的応用思考）へと進めることが出来るプログラム構成とする。
- ③学習者の知識、理解度、能力によって自由に学習が進められるユーザー主体の構造とする。
- ④臨床現場の変化、あるいはユーザーの反応に即応して、将来において発展的にバージョンアップを繰り返すことができる。
- ⑤I大学の人的・物的資源を最大限に活用した本学オリジナル版として完成する。

(2) 基本構想の具体化の検討

教材開発チームと担当業者を交えた意見交換により、以下の事柄を決定した。

- ①DVD（Digital Versatile Disc）の形態で作成する。
- ②学習内容は、学習進行に伴い段階的に変化しどの段階からでも学習出来るようにする。主に基礎教育課程の学生、次に新人看護師、その次に臨床3年目以上の看護師を対象とする学習内容で構成する。
- ③臨床看護現場のリアリティを提示できるように工夫する。
- ④学習内容には、認知領域・情意領域・精神運動領域それぞれを包含する。

(3) シナリオ作成

シナリオとなる看護場面は、日常の看護現場で遭遇する9事例から成る。①危機的状況に陥った場面、②手術後出血が疑われる場面、③痛みと不

安を訴えリハビリテーションが進まない場面、④複数の患者が同時にニーズを訴えた場面、⑤アドヒアランスの低い患者の教育場面、⑥認知症高齢者とのコミュニケーションの場面、⑦継続的な療養が必要な患者の退院支援の場面、⑧乳がん患者への告知と患者の意思決定を支える場面、⑨終末期にある患者の家族支援の場面である。各シナリオの教育目的と目標を表1に示す。

(4) シナリオに沿った撮影

撮影は、I 大学教育研究棟2階の看護スキル・ラボと成人・老年看護学実習室で行われた。2床室、およびHCU (High care unit) を想定して撮影した。撮影クルーは、現場を取り仕切る監督、それを補佐する助監督、カメラマン2名、看護師役の俳優2名(新人看護師役、リーダー看護師役)である。各シナリオに沿って撮影が進行したためシナリオ作成者は、看護現象を正確に演じられるように出演者へアドバイスした。

3. 学習進行に沿った教材の構造

教材の具体的構造について、学習進行に沿って説明する。スタート画面より学習したい事例を選択し(図1)、事例のタイトルが表示されスタートボタンをクリックすると学習が始まる(図2)。画面は、基本画面とテキスト画面にわかれる。基本画面に約1分程度で事例の看護場面が動画で映し出される。テキスト画面に看護場面に関する情報が提示され、同時にナレーションによって状況が解説される(図3)。次に、事例の学習目的が表示され、進行ボタンをクリックして学習が更に進む。もう一度、課題となる看護場面を確認したい場合は、後退ボタンをクリックすることで前画面に戻りその内容を確認することができる(図4)。学習内容は、step1 からstep3 の段階別になっているので、希望する学習のstepを選択する。(図5)。学習目標を理解した上で学習が進行する(図6)。学習の過程において、基本画面は、動画と静止画像を中心とする画像、あるいは図や表を表示する。テキスト画面は、基本画面に表示した内容・項目に対する詳細な説明を表示する(図7・8)。各stepの最後には、基本画面において学習のまとめを行う。テキスト画面では、次のstep選択のためのボタン、または事例選択画面に戻り他の事例を選択するためのボタンが表示される(図9)。



図1 スタート画面

この画面から学習が始まり、学習したい事例を選択する。タイトルの下段に事例一覧が表示されている。



図2 事例1を選択した場合の画面

スタートボタンをクリックすると学習が始まる。

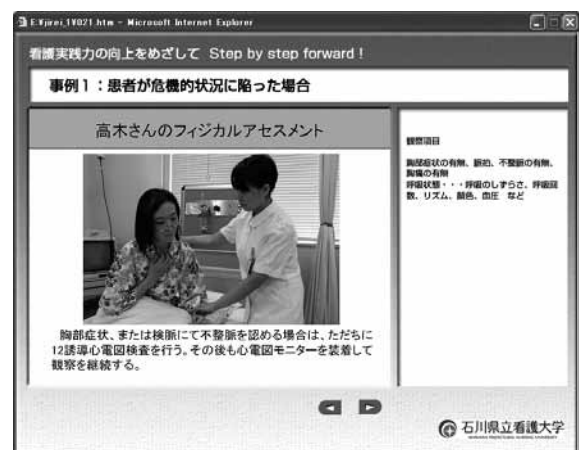


図3 基本画面とテキスト画面の活用

基本画面(左)に事例の看護場面が動画で映し出される。テキスト画面(右)に基本的な情報が提示され、同時にナレーションによって状況が解説される(約1分)。



図4 学習目的の表示画面

学習目的を理解する。進行ボタンをクリックして学習が進む。もう一度、課題となる看護場面を確認したい場合は、後退ボタンをクリックして確認することができる。

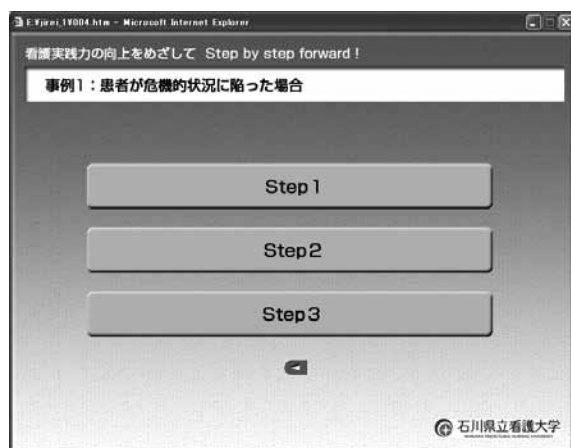


図5 Step 選択画面

学習内容はstep1 から step3の段階別になっているので、希望するstep を選択する。

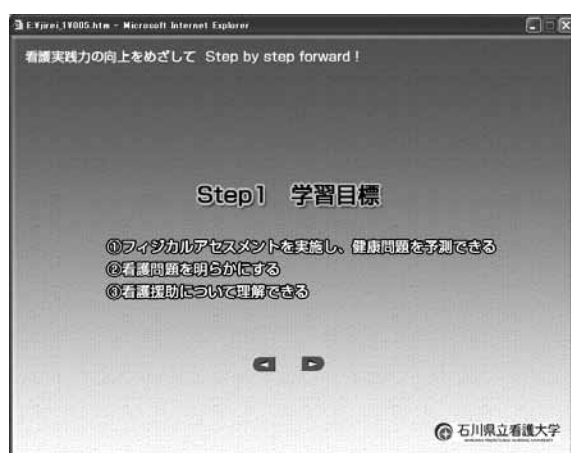


図6 学習目標の表示画面

学習目標を理解する。

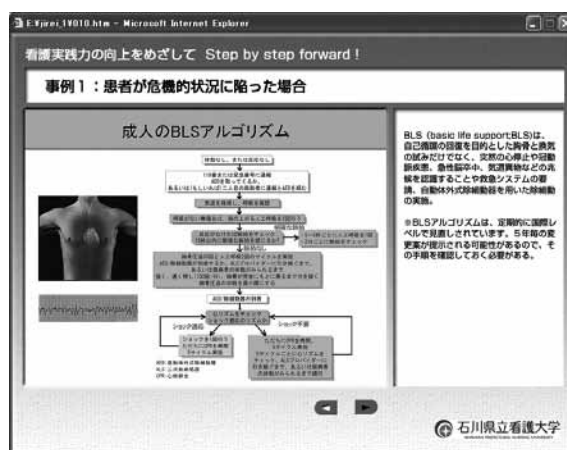


図7 基本画面（左）とテキスト画面（右）の実際 a
基本画面は、動画と静止画像を中心とする画像、あるいは図や表を表示する。テキスト画面は、基本画面に表示した内容に対する詳細な説明を表示する。

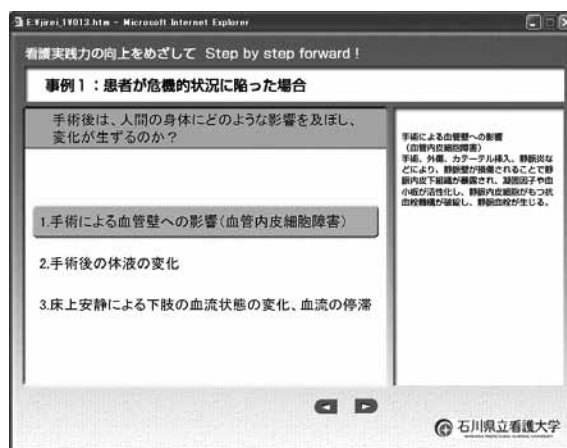


図8 基本画面とテキスト画面の実例 b

基本画面は、項目や見出しを表示する。テキスト画面は、基本画面の示す項目について詳細な説明を表示する。

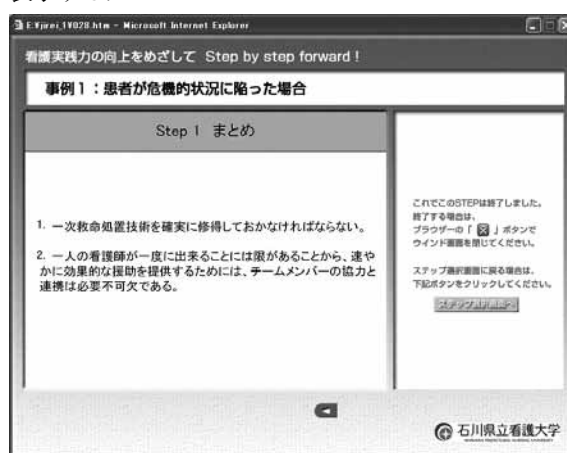


図9 各stepの終了画面

基本画面では、そのstepのまとめを表示する。テキスト画面では、次のstep選択のためのボタン、または事例選択画面に戻り他の事例を選択するためのボタンが表示される。

4. 教育実践での活用と教材・教育の評価

本教材のシナリオとの関連科目において活用を試みることは勿論であるが、同時に本教材の基本は、学生の自学自習を支援することであり、既習学習の振り返り、あるいは臨地実習前の事前学習、卒業前の知識と重要技術の確認などの学習行動として活用が期待される。従って、学生が自由に活用できるように整備し、本教材活用による教育効果の検証を開始している。教材評価の視点は、教材使用による学習の楽しさや満足度、教材の活用時期、活用方法、知識とスキルの習得、自己の課題発見効果などである。

また、継続教育での活用により知識とスキルを実践（仕事）で生かしたか、あるいは患者のアウトカムに期待すべき成果をもたらすことができたかについて、臨地との連携を図りながら本教材における教育の効果を判定していきたいと考えている。

5. 今後の発展

看護実践力の向上の過程において基礎教育課程の学生、継続教育を受ける看護職、潜在看護師などの対象特性を踏まえれば、活用範囲の自由なe-Learningによる学習支援システムが期待される。校内、臨地実習施設、関連組織とのネットワークにより、いつでも、どこでも、簡単に自学自習ができる学習支援環境を構築することである。

本教材を通して基礎教育と継続教育の連携を図り、相互における教育内容の理解、指導者の育成、また本教材が有効な学習教材として維持するためには、学習内容の修正や精選等を継続していくことが必要不可欠である。つまり、基礎教育と臨床現場との循環・協働型の教育システムとして発展させることである。

6. まとめ

看護実践力の向上をめざした学習教材を開発した。本教材は、看護現場に即したテーマをシナリオとして展開することで学生の自学自習を支援するためのものである。また、本教材は臨床における新人看護師の継続教育、潜在看護師の現場復帰支援においても応用的活用が期待される。

謝辞

本教材開発にあたり、学外から患者役として平良雄さん、丸岡外喜子さんにご協力を賜りました。また、本学の多くの教職員の皆様方に御協力を頂

きました。どなたも名演技をご披露して頂き、全学的な御協力なくして完成には至りませんでした。心よりお礼を申し上げます。

本教材作成の初期の段階より、様々な調整と準備をして下さった丸善株式会社金沢営業部丹保大八氏にもお礼を申し上げます。

参考文献

- 1) 明石恵子, 中川雅子, 中西貴美子, 他: 看護職新規採用者の臨床能力の評価と能力開発に関する研究 (1) - 新卒看護師の臨床能力の習得状況 - 三重看護学誌, 6, 137-148, 2004.
- 2) 日本看護協会編: 2002年新人看護師の『看護基本技術』に関する実態調査
- 3) 別所幸子, 水谷良子, 奥川直子, 他: 新卒看護師の教育に関する研究 - 教育ガイドラインの検討 - 日本看護学会論文 34, 51-54, 2003.
- 4) 佐藤学: 教育法理学, 岩波書店, 169-170, 2010.
- 5) 阿部幸恵: シミュレーション教育を支える教育観とプログラム作成の一連, 看護管理, 19 (11), 924-925, 2009.
- 6) 山内豊明: シミュレーション教育への注目と期待, インターナショナルナーシングレビュー, 137, 16-17, 2008.
- 7) 中村香代: 海外の看護シミュレーションの教育的取り組み, 看護管理, 19 (11), 943-944, 2009.
- 8) 大滝純司・阿部幸恵: シミュレータを活用した看護技術指導, 日本看護協会出版会, 3-5, 2008.
- 9) 浅香えみ子: 臨床看護教育とシミュレーション: インストラクショナル・デザインの重視, インターナショナルナーシングレビュー, 137, 25-29, 2008.
- 10) 真嶋由貴恵, 中村裕美子, 青山ヒフミ, 他: 看護実践能力の獲得を支援する e-Learning の導入と実践, 日本教育工学会, 第 22 回全国大会, 119-122, 2006.
- 11) 看護職有資格者の復職支援ダブルオンステップ, 大阪府潜在看護職員復帰支援事業, <http://www.w-onstep.net>

表1 シナリオ学習の目的・目標

番号	タイトル	学習目的	学習目標
事例1	危機的状況に陥った場面	危機的状況にある患者・家族を包括的に捉え危機的状況に対して適切な看護を実践する能力を養う。	<p>Step 1 :</p> <p>①フィジカルアセスメントを実施し、健康問題を予測できる。</p> <p>②看護問題を明らかにする。</p> <p>③看護援助について理解できる。</p> <p>Step 2 :</p> <p>①状況に対する重症度と優先度を判断できる。</p> <p>②患者・家族に対して状況を分かりやすく説明できる。</p> <p>③家族支援について理解できる。</p> <p>④看護実践の質を高めるためのディスカッションの場を企画することができる。</p> <p>Step 3 :</p> <p>①リーダ看護師は、新人看護師と共に事例を振り返り、看護実践力の向上に努めることができる。</p> <p>②リーダ看護師は、自分自身の役割を理解できる。</p> <p>③リーダ看護師は、看護問題を研究的視点で捉えることができる。</p>
事例2	手術後出血が疑われる場面	胸腔鏡下手術を受けた患者・家族を包括的に捉え、その回復過程において適切な看護を実践する能力を養う。	<p>Step 1 :</p> <p>①全身麻酔と手術侵襲における観察の視点を理解できる。</p> <p>②手術直後から経過を追いながらアセスメントできる。</p> <p>③胸腔鏡下手術後の看護援助について理解できる。</p> <p>Step 2 :</p> <p>①回復に向けて多部門との連携と調整の意義について理解できる。</p> <p>②緊急輸血における留意点を理解できる。</p> <p>③家族支援について理解できる。</p> <p>Step 3 :</p> <p>①外科的治療後の継続看護の必要性について理解できる。</p> <p>②医療安全の原則について理解できる。</p> <p>③ヒヤリ・ハット報告書、事故報告書を振り返り、その原因について理解できる。</p>
事例3	痛みと不安を訴えリハビリテーションが進まない場面	痛みと不安を訴える患者を包括的に捉え、その回復過程において適切な看護を実践する能力を養う。	<p>Step 1 :</p> <p>①痛みについて理解できる。</p> <p>②患者の心理的・社会的状況を理解できる。</p> <p>③患者の現状をアセスメントできる。</p> <p>Step 2 :</p> <p>①看護チームで看護援助の方向性を決定し看護計画を立案できる。</p> <p>②心身の緊張や苦痛を緩和するための関わりについて理解できる。</p> <p>③転倒リスクマネジメントについて理解できる。</p> <p>Step 3 :</p> <p>①ケアリングについて理解できる。</p> <p>②自己効力感を高める関わりについて理解できる。</p> <p>③リフレクションの意義について理解できる。</p>

事例 4	複数の患者が同時にニーズを訴えた場面	多重課題に対して看護援助の優先度を判断して適切な看護を実践する能力を養う。	<p>Step 1 :</p> <p>①点滴治療を継続するための留意点について理解できる。</p> <p>②排泄行動を援助するための留意点について理解できる。</p> <p>③両者のニーズをみたすための看護援助について考えることができる。</p> <p>Step 2 :</p> <p>①ADL 獲得のためにリハビリテーションのゴールを考えることができる。</p> <p>②同室者のニーズが重なった場合、双方の患者に対して了解の得られるように説明することができる。</p> <p>③同室者のニーズが重なった状況でおこる倫理的な問題について考えることができる。</p> <p>Step 3 :</p> <p>①リーダ看護師は、経験の浅い看護師に対してタイムマネジメントの方法について指導できる。</p> <p>②リーダ看護師は、経験の浅い看護師と共に看護実践を振り返り、評価することができる。</p> <p>③リーダ看護師は、看護チームメンバーと共に看護実践を向上するための学習を継続することができる。</p>
事例 5	アドヒアランスの低い患者の教育場面	自己管理が必要な患者を包括的に理解し、その患者教育に必要な実践能力を養う。	<p>Step 1 :</p> <p>①自己管理を促すアプローチについて理解できる。</p> <p>②病気をもちながら生活している対象を理解できる。</p> <p>③対象の看護の方向性について理解できる。</p> <p>step 2 :</p> <p>①患者教育において患者の気持ちを傾聴できる。</p> <p>②患者教育において患者の気持ちや考えを確認できる。</p> <p>③患者教育において患者の目標を共有できる。</p> <p>step 3 :</p> <p>①変化のステージモデルの活用について理解できる。</p> <p>②エンパワーメントアプローチの活用について理解できる。</p> <p>③自己効力感の活用について理解できる。</p>
事例 6	認知症高齢者とのコミュニケーションの場面	転倒し大腿骨骨折後に術後せん妄を起こしている認知症高齢者に、安心して療養生活を過ごせるようにコミュニケーションを図り、適切な看護を実践する能力を養う。	<p>Step 1 :</p> <p>①対象のアセスメントの視点を明らかにする。</p> <p>②認知症高齢者が体験している思いを確認することができる。</p> <p>③看護チームの一員として役割を理解できる。</p> <p>Step 2 :</p> <p>①対象の回復に必要な条件を明らかにする。</p> <p>②認知症高齢者に対する看護援助について理解できる。</p> <p>③看護チームの一員として看護援助の方法について検討できる。</p> <p>Step 3 :</p> <p>①リーダ看護師は、認知症高齢者をアセスメントを実施し環境調整の必要性を判断できる。</p> <p>②リーダ看護師は、チームメンバーの中心となって看護援助の方法を検討することができる。</p> <p>③リーダ看護師は、認知症高齢者の家族へ協力を要請し、支援体制を築くことができる。</p>

事例 7	継続的な療養が必要な患者の退院支援の場面	退院支援の必要性を判断し、退院後のケア継続のための介入とアプローチ、退院支援における地域との連携と調整、その評価に必要な実践能力を養う。	<p>Step 1 :</p> <p>①退院支援の必要性を判断する方法について理解できる。</p> <p>②退院後のケア継続のための介入とチームアプローチについて理解できる。</p> <p>③退院支援における地域との連携・調整の必要性と方法、および退院支援の評価について理解できる。</p> <p>Step 2 :</p> <p>①所属病院（病棟）の退院支援の必要性を判断するシステムについて理解できる。</p> <p>②所属病院（病棟）の退院後のケア継続のための介入とチームアプローチの実施について理解できる。</p> <p>③所属病院（病棟）の退院支援における地域との連携・調整の実態と退院支援の評価について理解できる。</p> <p>Step 3 :</p> <p>①担当患者の退院支援の必要性を判断することができる。</p> <p>②担当患者の退院後に必要なケアを継続するための介入とチームアプローチを実施することができる。</p> <p>③担当患者の退院支援において地域との連携・調整をとることができる。</p> <p>④担当患者に実施した退院支援を評価することができる。</p>
事例 8	乳がん患者への告知と患者の意思決定を支える場面	乳がんの告知を受ける患者の心理状態を理解し、意思決定を支えるための実践能力を養う。	<p>Step 1 :</p> <p>①がん告知を受ける患者の心理状態について理解できる。</p> <p>②患者とその家族にとってがん告知やインフォームド・コンセントのあり方が理解できる。</p> <p>③がん告知やインフォームド・コンセントのプロセスにおける看護師の役割を理解できる。</p> <p>Step 2 :</p> <p>①がん告知におけるコミュニケーションスキルについて理解できる。</p> <p>②がん患者に対する告知の方法について考えることができる。</p> <p>③がん患者に対するがん告知後の援助について理解できる。</p> <p>Step 3 :</p> <p>①治療に関する意思決定の必要性とそのプロセスについて理解できる。</p> <p>②治療に関する意思決定を支えるためのアセスメントの視点と援助の方法がわかる。</p> <p>③患者や家族への効果的なチームアプローチについて理解できる。</p>
事例 9	終末期にある患者の家族支援の場面	終末期のある患者の家族を理解し、患者とその家族を尊重した看取りのための実践能力を養う。	<p>Step 1 :</p> <p>①終末期にある患者の家族について理解し、家族援助の必要性が理解できる。</p> <p>②終末期にある患者の家族の状況について理解できる。</p> <p>③終末期にある患者の家族に対する援助の視点について理解できる。</p> <p>Step 2 :</p> <p>①家族をアセスメントする視点について理解できる。</p> <p>②事例の家族についてアセスメントできる。</p> <p>③事例の家族に求められる家族の対処を促すための援助が理解できる。</p> <p>Step 3 :</p> <p>①患者と家族を尊重した看取りに関する意思決定への援助の方向性が理解できる。</p> <p>②終末期にある患者の家族へのケアをめぐる看護師のジレンマへの対処について考える。</p> <p>③終末期にある患者の家族に対して多職種が関わる医療チームでの援助が提供できる。</p>

Development of scenario learning materials to support improved practical nursing competence

Yoshiko MURAI¹, Chikako KATADA¹, Akiko KATO¹,
Kiyomi HIKO¹, Mitsue FUJITA¹, Yukie TAMURA¹,
Naoko MARUOKA¹, Kazuyo KAWASHIMA¹

Abstract

In order to improve practical nursing competence, learning materials were developed on a DVD entitled *Independent Scenario Learning: Step by step toward improved practical nursing competence*.

The aim of developing these materials was to show nursing situations that students need to learn about but have little opportunity to experience, as well as complex nursing situations that are difficult to deal with, and support learners to think analytically about nursing interventions, according to their abilities and understanding. The DVD comprised a total of 9 scenarios, with learning content aimed at various stages, from students in basic nursing education to newly qualified nurses and nurses with at least 3 years of clinical experience. Materials were organized so that learners could begin from any level, depending on their own individual learning progress. As well as being used by students for independent study to improve their practical nursing competence, the materials could also be used effectively for continuing education or to support nurses thinking of returning to work after a career break.

The next stage will be to use and evaluate the materials, improve their quality, and develop a cyclical, collaborative education system that promotes links between basic nursing education and continuing education through the use of the materials.

Key words Simulation education, scenario learning, nursing education,
practical nursing competence, human resource development